

● 11月12日（水） 第1日目

第2回 ASEF 開催に当たり、韓国造船工業会（KOSHIPA）会長、韓国知識経済部（Ministry of Knowledge Economy(MKE)）産業局長から歓迎の挨拶が述べられた後、韓国船級協会（KR）会長、Mr. Oh Kong-gyun から基調演説（“Our Commitment to Maritimes Safety and Protection of the Marine Environment”）が行われた。その後、プログラムに添って、テーマ毎に講演と討議が行われた。



韓国造船工業会（KOSHIPA）会長



韓国知識経済部産業局長

フォーラム議題1（安全関係その1） IMO GBS

- i) Mr. Koichi Yoshida, National Maritime Research Institute (Japan)
“GBS – a new IMO rule making process – How it impacts the shipbuilding industry”
- ii) Mr. Man-soo Kim, Daewoo Shipbuilding & Marine Engineering (Korea)
“Pilot Panel Report of GBS Tier III Verification Process for IACS CSR”
- iii) Mr. O Kitamura, Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. (Japan)
“Intellectual Property Rights vs. Design Transparency”

討議概要

GBS 関連の新しいスキームとして、海上安全委員会（MSC）に於ける GBS III 立証プロセスのパイロット・パネルの報告が行われ、この講演を受けた討議において、Net Scantling 及び知的財産権（IPR）のような造船業に密着する幾つか問題が提起された。

また、IMO における Safety Level Approach の考え方、IMO と IACS との関連について意見交換が行われた。

上記の討議の結果、アジアの造船業界は IMO における議論及び活動に対して、積極的に参加すべきである旨の共通認識を得た。



海上技術安全研究所 吉田 公一 氏の講演
（GBS）



三菱重工業 北村 欧 氏の講演
（GBS）



プレゼンターと参加者との討議

フォーラム議題 2 (安全関係その 2) IMO PSPC

- i) Mr. Wang Guoping, Hudong Zhonghua Shipbuilding(Group) Co., Ltd. (China)
“PSPC”
- ii) Mr. Hidehisa Ashida, Oshima Shipbuilding Co., LTD. (Japan)
“Useful and Reliable Technology, Electric Conductivity : All Soluble Salt Ions”
- iii) Mr. Masanori Yoshida, Japan Ship Technology Research Association (Japan)
“Corrosion Protection for COT of Crude Oil Tankers ‘Corrosion-Resistant Steel’”
- iv) Mr. Yong-woon Kim, Daewoo Shipbuilding & Marine Engineering (Korea)
“The 1st PSPC Experience”

討議概要

バラスタンク塗装基準に関し、実際の適用に基づく多くの提案が紹介され、新しい試験方法である「塩分測定システム」についても説明が行われた。

また、我が国からは、IMO へ提案し、塗装の代替手段の一つとして認められた耐食鋼についての講演を行い、タンカーの COT (Cargo Oil Tank : 底板に於ける局部腐食 (孔食)) を防ぐ、造船業全体としての有益な方法であることが確認されると共にこれらの講演及び討議がアジア造船業界全体としての防食基準問題の克服に向け、有効なものになり得ることが認識された。



大島造船所 蘆田 英久 氏の講演
(塩分測定システム)



当会主任研究員 吉田の講演
(耐食鋼)



プレゼンターと参加者との討議

フォーラム議題3（環境関係その1） Air Pollution and Ship Recycling

- i) Mr. Zhou Weizhong, Hudong Heavy Machinery Co., Ltd. (China)
“Discussion on NOx Certification Obtainment and NOx Emission Survey on Board for Marine Low Speed Diesel Engine”
- ii) Mr. Li Xiaoping, Marine Design & Research Institute of China (China)
“Comments on the Proposed Attained New Ship Design CO₂ Index”
- iii) Mr. Tasuku Hirabara, Japan Ship Technology Research Association (Japan)
“Ship Recycling Convention - What does it require shipbuilders to do?”

討議概要

——大気汚染関連——

MARPOL 条約の附属書VIの改正による新規則に対応していくことが、造船業界の緊急タスクの一つであるとの認識が示され、また、排出証明を得るために技術文書（Technical Document）を作成する2つの方法が詳細に説明された。

船舶から排出される地球温暖化ガス（GHG）に関しては、GHG 排出の削減並びにエネルギー効率の向上が重要であるとの認識が共有された。

また、IMO で現在審議が行われているエネルギー効率設計インデックス（EEDI）に関する技術的議論が紹介され、出席者からは、アジアは世界の造船中心地であり、アジアの造船業がエネルギー効率設計インデックス・ガイドライン案を試行することによって、EEDI に関する IMO の検討作業に大きく寄与することができる旨が示唆された。

——シップリサイクル関連——

現在 IMO にて策定中のシップリサイクル条約で要求される要件について、詳細な説明が行われた。出席者からは、現存船のためのインベントリーの作成が作業量・費用の観点から困難なものになるのではないかと懸念が示され、現存船のためのインベントリーの作成方法について、出席者の関心が集まった。

また、既に作成されている Green Passport と新条約のインベントリーとの関連について意見交換が行われた。議論の結果、インベントリーの作成には初期準備が重要である旨の理解が共有された。



当会首席研究員 平原の講演
(シップリサイクル)



プレゼンターと参加者との討議

フォーラム議題 4 (環境関係その 2) Ballast Water Management Convention and Current Technology Development of Ballast Water Treatment System

- i) Mr. Lu Changrong, Shanghai Merchant Ship Design & Research Institute (China)
“Recent Application on Regulation for Ballast Water Treatment in Ship Design”
- ii) Mr. Ki-hoon Han, Hyundai Heavy Industries Co., LTD. (Korea)
“Recent Development of Ballast Water Treatment Technology”

討議概要

バラスト水管理条約の規則内容及びバラスト水処理システム (BWTS) の承認のための手続きについて説明が行われ、中国、韓国におけるバラスト水処理用の技術を含む BWTS の現在の開発状況について報告が行われた。

また、BWTS に対する考察として、BWTS の船上設置の問題、BWTS で使用される化学物質の海洋環境影響などの諸問題が提起された。

さらに、バラスト水処理に必要な時間並びに BWTS を操作するための特別なトレーニングの必要性の有無等に、出席者の関心が集まった。



バラストウォーター講演風景

● 11月13日（木） 第2日目

フォーラム議題5 Any Other items

- i) Mr. Hong-He Ping Chan, (China)
“Development Trend of Green Shipbuilding Technology”
- ii) Mr. Sei-chang Lee, Korean Register of Shipping (KR)
“Overview of regulations and standards on marine environment protection”

討議概要

中国からは、環境にやさしい“Green Shipbuilding Technology”として、建造時から Ship Recycling を考慮、ディーゼルエンジンから電気推進システムへの移行、低騒音・低振動への取り組みなどが将来の造船業界に必要な取り組みとなる旨が報告された。

韓国からは、海洋環境保護に関する IMO 規則及び ISO 標準について講演を行い、IMO における①PSPC & AFS、②大気汚染&GHG、③シップリサイクル、④バラスト・ウォーター・マネジメントに関する審議状況を報告するとともに、これらの動きに合わせて現在 ISO (ISO/TC 8/SC 2) で議論が行われている各標準化作業についても報告が行われ、また、韓国における油流出事故についても紹介された。

この講演において、IMO での海洋環境保護に対する取り組みについて理解を深めると共に ISO でも取り組みが行われているとの認識がなされた。



中国船舶工業行業協会（CANSI）の講演



韓国船級協会（KR）の講演

フォーラム議題6 Discussion on ASEF Framework, NGO to IMO and any other items

- i) Mr. Tsuyoshi Yahagi, Japan Ship Technology Research Association (Japan)
“Amendment of Framework(1st ASEF Resolution 1) and Information of NGO”

討議概要

前回フォーラムで採択した「アジア造船技術フォーラム・フレームワーク」(Resolution 1(1)) の見直しを提案し、このフォーラムを正式な組織 (ASEF) として設立し、IMO の NGO ステータス取得に向けて今後積極的に取り組んでいくことを提案した。この提案を受け、討議の結果次の合意を得た。

- ASEF として IMO の NGO ステータスの取得を目指すこと。
- ASEF の事務局を設置することし、第 3 回 ASEF まで、(財) 日本船舶技術研究協会が事務局を勤めること。

なお、第 3 回 ASEF の開催時期は 2009 年 10 月末、開催地は西安又は上海近郊都市が候補地として挙がっている旨報告があったが、詳細は追って ASEF 事務局である当協会と協議のうえ、通知する旨が報告された。



当会常務理事 矢萩の司会による ASEF フレームワークの審議

上記により、今回フォーラムでの議題審議を終了した後、STX Shipbuilding へのテクニカルツアーが実施された。STX は韓国国内の他、中国大連にも造船所を設け、船舶建造を行っている。



以上

●本件に関する問い合わせ

(財)日本船舶技術研究協会

基準・規格グループ 平原 祐 ・ 梶塚 靖司

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-7-2 虎の門高木ビル 5 階

Tel : 03-3502-2130 Fax : 03-3504-2350 E-mail : kajitsuka@jstra.jp